



Title	侵入したセアカゴケグモ
Author(s)	吉田, 政弘
Citation	makoto. 1997, 100, p. 2-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85874
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『侵入したセアカゴケグモ』

大阪府立公衆衛生研究所

主任研究員 吉 田 政 弘

平成7年11月、大阪府高石市で日本で初めて発見確認されてから、足かけ3年を経過しようとしているセアカゴケグモのその後の状況と今後の展開について記す。

「分 布」

府県レベルで、セアカゴケグモが発見された所は、大阪府、三重県について平成8年には、和歌山県の1府2県に認められ、本年平成9年8月末に兵庫県（筆者ら採集確認）で発見され、当初の初発見以来、本クモの分布域は拡大されつつあるといえる。分布域の拡大についての特徴を大阪府および三重県の様に多数のクモが確認されている府県内での状況で少し詳細に見る。

大阪府下では、平成7年から8年にかけて13市4町で見られる様になり、平成9年にはさらに1市が加わり、現在14市4町で採集確認されるに至っている。三重県では平成7年より8年にかけては1市のみからの確認であったが、平成9年には1町、1市が加わり、2市1町に認められた。

この様に、大阪府あるいは三重県下では年々このクモの勢力拡大は進行を強めている様に感じられる。大阪府での本クモの拡大は、近接する和歌山県や兵庫県に影響を及ぼしているものと考えられる。

「大阪府下での分布の拡大地域の特徴」

まず本クモが採集される地域の特徴について見る。大量に発見される地域は、大阪府南部湾岸地域に集中し、その特徴は、近年埋め立て開発されてまもない所に集中していることにある。その典型的な地域は関西国際空港での調査報道（H9年

7月）にもあらわれている。筆者が現場調査した結果からは、空港島以外の所が大部分であるが、最近開発整備された公園、空地、海水浴場等の広大な所での発見率が高いことを観察している。湾岸部以外の内陸部に位置する富田林市の地域においては住宅団地であるが、これまた近年開発されて間もない特徴を持っている。このような特徴を持ちあわせない地域では、本クモの発見数が単独であったり、少数である場合が多く、平成9年の調査では再確認が困難である。大量発生地域からの何らかの手段で、ピンポイント的、偶発的に発見されたに過ぎないのかも知れない。逆に早期に発見、除去が二次発生源の抑制に役立っているのかも知れない（多分に！）。平成7年から発見されている泉大津市や高石市においては、湾岸部以外にそれと近接する市街部の住宅街、墓地、駅周辺までも早期から（平成8年）侵入しており、この状況（分布域の拡大）は現在においても進行中である。

大阪府下でのこのような分布拡大の傾向は、三重県四日市においても同様なことが窺える。大阪府と同時期に発見された四日市の埋め立て工業地帯から、北上し、名古屋圏に拡大する傾向を示している。発見される地域は、国道沿いの大店舗（近年に営業が開始された）敷地内や、大規模団地（建築後新しい所）であり、大阪府の状況と全く同様である。

大阪では南下、三重県では四日市から名古屋方向への北上が大勢であることが窺える（図1、2参照）。

「分布拡大の手段」

クモ類の分散の手段として従来から認められている一般的な方法は、風、交通、クモ自体のバルーニングが有力な方法として上げられ、実際に証明されている種類がある。しかし、日本に侵入した本セアカゴケグモの分散方法について詳細に確実に証明し得た文献、資料に乏しい。筆者らはその解明に鋭意努力中であるが、その一端を紹介するにとどめたい。

大阪府下の吹田市、羽曳野市、藤井寺市、八尾市、大阪市、東大阪市、岬町では発見されたクモの個体数は少数（多くは1個体）であった。これらの多くの地点では、それ以降の発見は現在までない。しかしながら東大阪市のある地点では、自動車整備工場で定期車検中の自動車から多数（卵のう、クモ）が発見された。このことは、クモの繁殖がここ1年間認められている地域から、交通や資材（建築資材等）によって持ち込まれたものと考えられる。

平成9年8月に発見された吹田市の例では、平成9年4月に外壁（住宅）の改修の歴史があり、水道メーターボックス内から発見された。クモが持ち込まれた可能性を考察すると、この家では、改築時使用された足場以外に、クモの発生している地域との関係は、他に見あたらなかった。

兵庫県下のある1市では、現在住宅団地として開発中（工事中）の雨水側溝樹から1頭発見された事例や、平成7年12月から大量に見い出されている新興開発住宅分譲地と近接する開発から時間の経過した分譲地からは未だ発見されていない事例、三重県桑名市の新規開発住宅団地からの発見、大阪府下南部の分譲地（筆者、平成9年7月確認）での事例。等々の事例から浮かび上がってくるクモの分散手段の共通要因として、建築時における資材や車等の交通手段が疑われる。このようなことは、大阪府下湾岸部より相当内陸部に入り込んだ国道沿いのスーパーや遊技場等の駐車場の雨水溝のグレーチングに多数の本クモが見い出される事が多い事例でも同様に説明が可能であると考える。この事は各府県下における地域的分布が道路沿いに大阪府下および三重県下でも認められ

ることと一致していると私は考えている。

「今 後」

セアカゴケグモの繁殖能力は非常に大きいことは、一雌の産下する卵のう数は高温期に最低3卵のう以上で、1卵のうから出てくる仔グモは約200個体、天敵が自然界では皆無に等しい、低温に対しても相当耐えられる。本クモの食料としている生き餌は、ネットに引っかかるものは多種類で、いわば引っかかるものは何でもよい（表1、2参照）。食料源が特定のものに偏重していない。人が普段踏み込まないところでちょっとした隙間にひそむことができる。等々の事実より、日本における定着はすでに完了しており、何らかの措置を施さない限り、その分布域は拡大の一途をたどるものと考えられる。

日本における本クモの被害例は、平成9年7月に1名発生した。今後、その被害の発生を予防するためにも、毎年約500名の被害例をみているオーストラリアでの本クモの個体数と被害者数との関係を明らかにする必要がある。このことにより、本クモといかに共生あるいは共存するかの一指針になると考えられる。

本稿では、セアカゴケグモの分布についてのみ書いたが、もし許されるならば本稿を序文として、今後シリーズとして、よりクモに近づいた分析を生態面、生理面、毒性面等からの稿をおこして見たい。

1997. 8

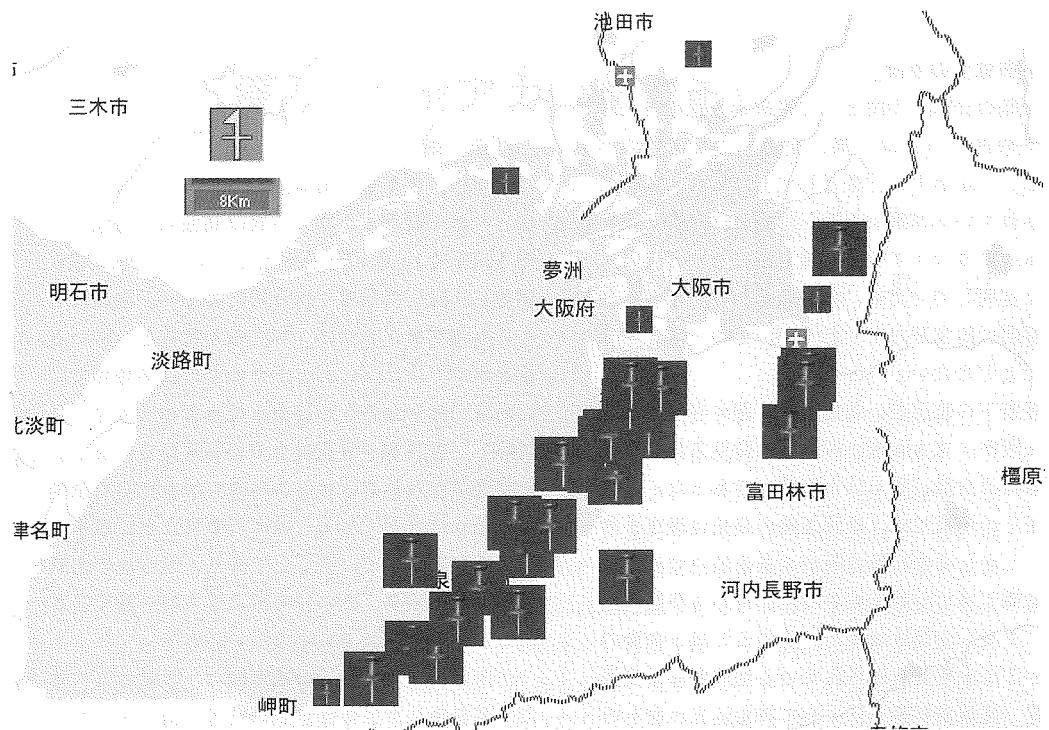


図1 大阪府下における分布

※ 小四角は1個体、他は複数

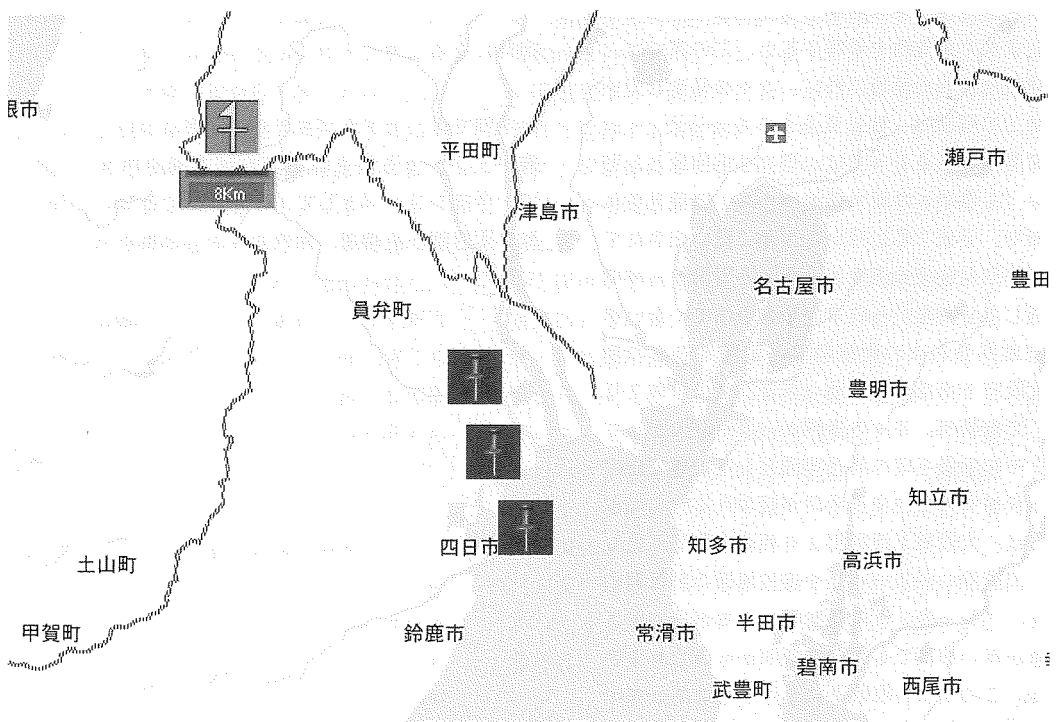


図2 三重県下における分布

セアカゴケグモ食性調査（大阪府富田林市梅の里 1995年12月 5 日採集）

表1 食物とされていた可能性のある昆虫類その他の死骸

分類群	個体数	
1、鞘翅目	約60	
2、直翅目	14	
3、膜翅目	5	
4、半翅目	3	
5、*その他昆虫類	8	*（双翅目、革翅目、鱗翅目）
6、その他節足動物	5	

表2 同定が終了した一部の検体については下記のとおり

目	科	種
直翅目	キリギリス科	ウスイロササキリ
	コオロギ科	ミツカドコオロギ
	ヒシバツタ科	モリヒシバツタ <i>Tetrix</i> sp.
		ヒシバツタの一種 <i>Tetrigidae</i> gen. sp.
	オンブバツタ科	オンブバツタ
	バツタ科	トノサマバツタ
		クルマバツタ
	イナゴ科	イナゴの一種 <i>Oxya</i> sp.
	オオハサミムシ科	オオハサミムシ
	カメムシ科	マルシラホシカメムシ
革翅目	ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ
半翅目	オサマシ科	セアカヒラタゴミムシ
鞘翅目		ニセマルガタゴミムシ
		ヒョウゴマルガタゴミムシ
		マルガタゴミムシの一種 <i>Amara</i> sp.
		ゴミムシ
		オオゴモクムシ
		ヒメケゴモクムシ
		マルガタゴモクムシ
		ゴモクムシの一種 <i>Harpalinae</i> gen. sp. A
		ゴモクムシの一種 <i>Harpalinae</i> gen. sp. B
		ゴモクムシの一種 <i>Harpalinae</i> gen. sp. C
	ハネカクシ科	コアトワアオゴミムシ
		メダカハネカクシの一種 <i>Stenus</i> sp.
		ツヤムネハネカクシの一種 <i>Quedius</i> sp. A
		ツヤムネハネカクシの一種 <i>Quedius</i> sp. B
	テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ
	ゾウムシ科	クチブトゾウムシの一種 <i>Cyphicerini</i> gen. sp.
		ヤサイゾウムシ
	コハナバチ科	コハナバチの一種 <i>Halictidae</i> gen. sp.
	ワラジムシ科	ワラジムシ科の一種
	ヤケヤスデ科	ヤケヤスデ科の一種 <i>Paradoxsomatidae</i> gen. sp.
膜翅目		
等脚目		
オビヤスデ目		
7 目	16 科	32 種

その他生きた状態で発見された種

ミスジキイロテントウ 1 個体（近年国内より記録された外来種）

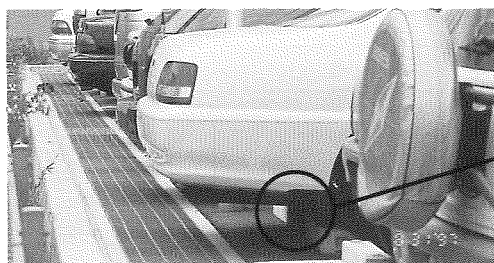
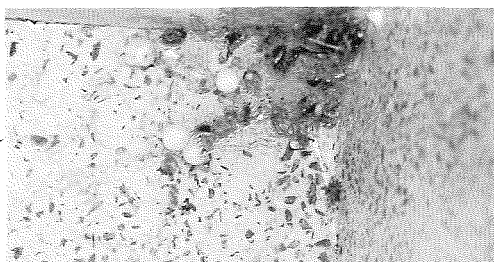
クロヤチグモ 1 個体

ハエトリグモの一種（幼態）

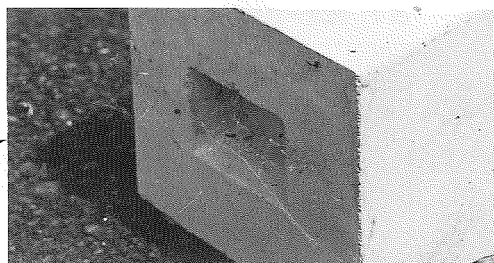
ウオッチング——クモを探せ!! 「セアカゴケグモはどこにいるか？」



コ ー ナ ー



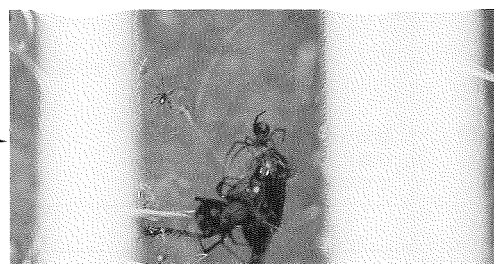
車 止 め



グ レ ー チ ング

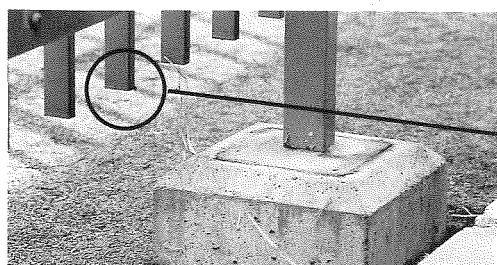


グ レ ー チ ング

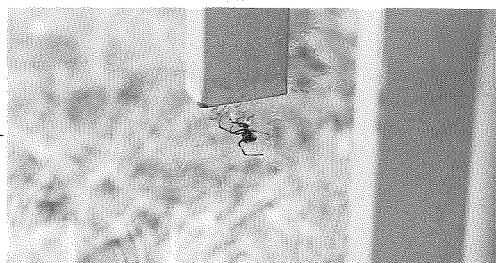


植 え 込 み

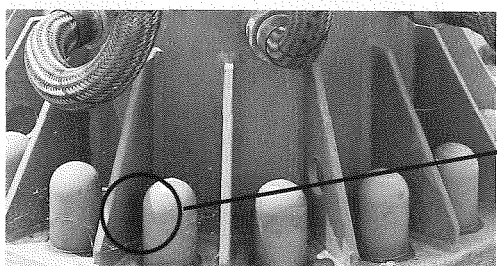
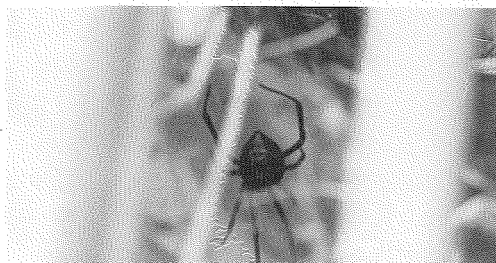




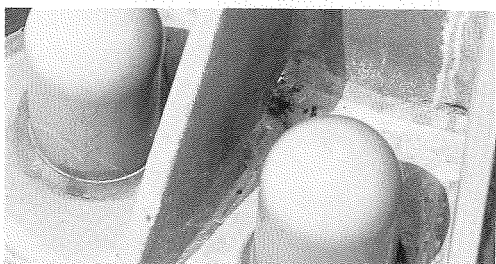
フェンス



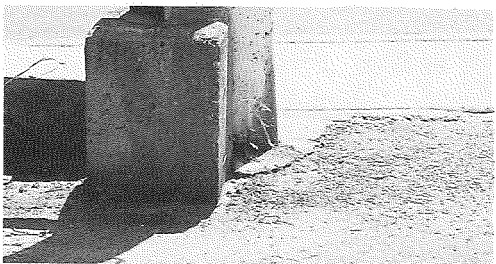
グレーチング



照明灯



フェンス



自動販売機

